













カシノナガキクイムシ被害について



京都市内で、カシノナガキクイムシによる被害が発生しています。

非常に繁殖力の強い昆虫であるため、放置しておくと、被害が拡大していき、山全体で多くの木々が枯れるようになります。

写真①の点する赤い樹冠が枯死木です。
(※平成22年 8月20日撮影)



写真②は、北陸地方の被害地で、対策をせずに4年くらい経過した場所です。

赤くなっているのは紅葉ではなく枯死木です。森林がこのような状態にならないよう、対策をしています。

カシノナガキクイムシとは



白いのが幼虫、黒いのが成虫。

カシノナガキクイムシは体長5mm程度の小さな甲虫です。キクイムシと言いますが、樹木を餌にしてるのではなく、Raffaelea菌（通称ナラ菌）を樹木内に持ち込み、菌糸もしくは同時に持ち込んでいる酵母を餌としています。被害木はブナ科（ドングリをつける木）の樹木で、ナラ、シイ、カシなどです。



樹木が枯死する直接の原因は、カシノナガキクイムシが持ち込んだナラ菌の影響です。カシノナガキクイムシが1本の樹木に大量（数千匹）に集まるため、ナラ菌は急速に樹木全体に広がります。この菌の影響によって樹木全体の水分供給機能がストップし、枯死すると考えられています。写真の黒い部分では水分供給機能が失われています。

どのような対策をしているのか

枯死木の伐倒、薬剤による燻蒸をしています。

- ・この枯死木については、伐倒、燻蒸処理を実施しています。

- ・枯死木を放置すると、そこから虫が大繁殖し、周辺森林に急速に被害が拡大することから、この伐倒、薬剤処理が、カシナガ被害対策の主力といえます。

※シートを剥がしたり破ったりしないで下さい。



林野庁 京都大阪森林管理事務所(電話075-414-9822)